

◆ほんとうの「幕末明治日本の産業革命の地」横須賀製鉄所の着工150周年記念◆

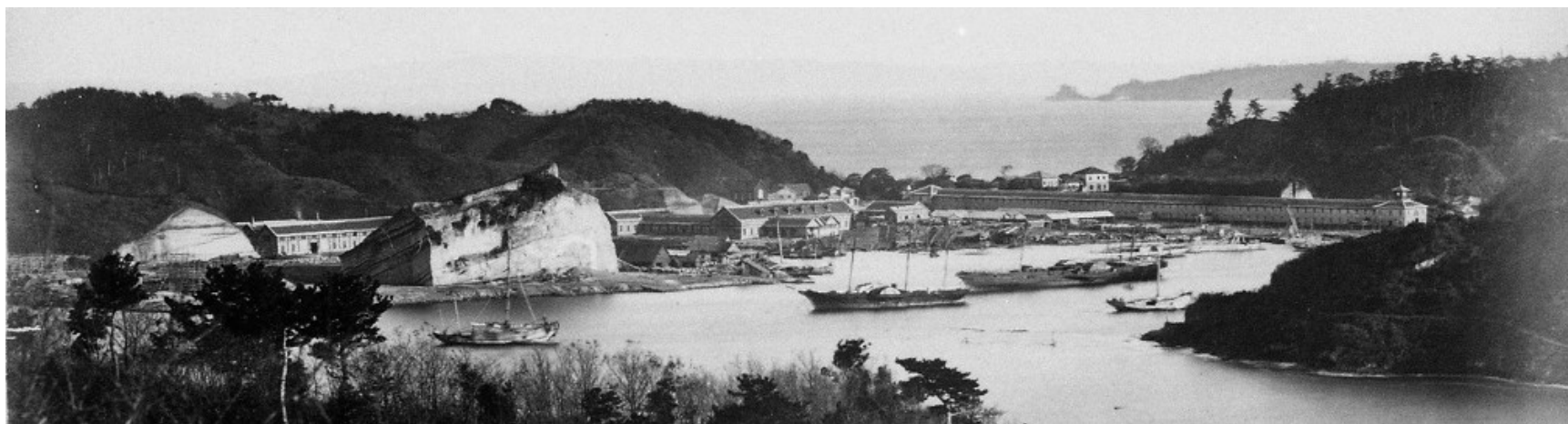
横須賀市で初の—小栗上野介展

主催: 小栗上野介顕彰会

共催: 東善寺

横須賀製鉄所から見えてくる「日本の近代化は幕末から〜」という、ほんとうの歴史。

11月13日(金)〜22日(日) 横須賀市文化会館 3F 横須賀市深田台50番地 046-823-2950 入場無料



▲横須賀製鉄所 明治初年 海岸べりの山を削り取りその下にドックを掘った。右は長さ300mの製綱所(ロープ工場)で慶応2年から蒸気機関で稼働していた。日本の近代化は幕末に始まっている。写真提供: 安池尋幸氏

小栗上野介が建設を提案して1865慶応元年着工以来150周年を記念し、横須賀市で初の「小栗上野介展」を行ないます。

・主な内容 近代化の眼を開いた遣米使節の旅／小栗上野介とは／横須賀製鉄所建設 - 日本近代化の先駆けとなった - ／駆け抜けた幕末の8年間／上州にかけた夢むなし

◆解説パネル新調 「解説パネル」を新調展示します

「横須賀製鉄所建設」…横須賀製鉄所の特徴 ①蒸気機関を原動力として慶応年間から稼働していた ②何でも造る総合工場である ③人材育成機関で人づくりもしていた

「咸臨丸神話の成立ち」…大正7年から修身教科書で学んだ「勝海舟一勉強」「咸臨丸一勇気」は、歴史ではないつくり話。

「顕彰慰霊碑」…死後も逆賊扱い一村人が選んだ碑文にクレームを付けた警察官僚の「官軍」意識

「上毛かるたの 小栗上野介」…戦後も受難がつづく小栗上野介。上毛かるたに入れる原案が「小栗は横須賀軍港を作ったから軍国主義者」というGHQ(占領軍司令部)の判断でかなわなかったいきさつと、いつか復活させる願望で作られた札「ら」の話。

◆ギャラリートーク 住職村上泰賢のギャラリートークを行ないます。＊日程はHP 東善寺をご覧ください。

□横須賀市で講演します

「幕府の運命、日本の運命」村上泰賢

主催: 横須賀開国史研究会／10月24日(土)午後1時30分〜 横須賀芸術劇場「バイサイドポケット」(京急汐入駅前)

□海上自衛隊横須賀音楽隊が参拝と研修

8月29日(土)午後 東善寺

海上自衛隊横須賀音楽隊は30日の演奏会(高崎音楽セン



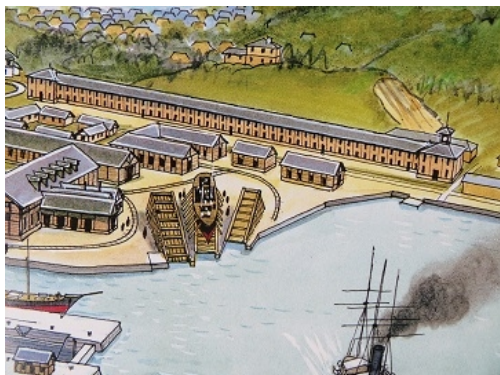
ター)で福田洋介作曲「小栗のまなざし」を演奏。フル編成の演奏は素晴らしく、感動した。前日には小雨模様の

中、東善寺で小栗公の墓参りと史料見学・住職の講話を聴講し、幕末の歴史認識を深める研修を熱心に行った。

情報あれこれ

□小栗上野介解説スライドショーDVD 制作東善寺

小栗上野介の業績を項目別に「画像とナレーションで解説」したスライドショーDVDを5種類制作しました。庫裡大広間で見られます。



◆小栗上野介の生涯…出生・遣米使節・幕府での活躍など 〈16:00〉

◆横須賀製鉄所…幕末日本の産業革命の地と

▲製綱所 絵:穂積和夫 なった横須賀製鉄所とその影響 〈15:10〉

◆遣米使節の旅…日本人初の世界一周で使節が見たもの、日本にもたらしたもの 〈13:30〉

◆咸臨丸神話の成立…なぜ日本人は勝海舟・咸臨丸だけ知っている？ いまも続く戦前の修身教育の後遺症を解説 〈10:00〉

◆上州にかけた夢 むなし…権田村の日々と、小栗主従の死、道子夫人の会津脱出 〈15:10〉

□小栗上野介顕彰会機関誌『たつなみ』40号 発行 倉渕支所・東善寺で入手できます。

○小栗まつり墓前祭・記念演奏会○

あさか ござんさい

講演『安積良斎先生とその門人小栗公～幕末海防の論理と実践について～』 安藤智重○ほんとうの「幕

末明治の産業革命の地」は横須賀製鉄所 村上泰賢○横須賀造船所

における人材育成 小野雄司○資料紹介

『江戸幕末滞在記』より「横須賀造船所建設」「ロッシュの人柄」

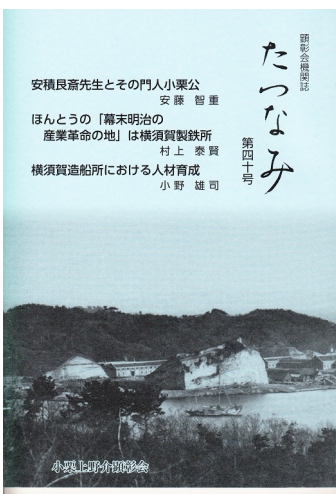
○小栗上野介年譜作成の経緯と関係史料大塚秀郎○「小栗の里」命名

のゆえん市川八十夫○対馬事件の史跡を訪ねる (三) ○「小

栗上野介の甲冑」は疑問／麻の肩衣○資料紹介エドアルド

スエンソン『江戸幕末滞在記』より…横須賀造船所建設・

ロッシュの人柄 **「東善寺たつなみ会」会員にはまもなく発送します**



□『フィラ・ニッポニカ 改訂版』刊行 フィラデルフィア日米協会

◇フィラデルフィアを初めて公式に訪れた日本人—遣米使節一行の行程や日本にもたらした近代化の関わり、及び小栗上野介の人物像と横須賀造船所建設などの業績を、住職が書きました。・フィラデルフィアに関わりのあるたくさんの日本人やアメリカ人の業績が、人物や項目別3～4ページで紹介され、どこから読んでも楽しい構成。また日英文で同じページに併記されているので、英語を学ぶ人にとっては、大変参考になりそう。*国内ではアマゾンでも扱っています。

□雑誌「歴史街道」

10月号 (9月初旬発売)

に 住職村上泰賢「横須賀製鉄所と小栗上野介」記事を掲載。日本の近代化は幕末に始まっていることがよくわかり、「日本の近代化は明治以後」としてきた明治政府の誤りが理解できます。

□日東精工「ニュースレター」8月号で

小栗上野介の業績記事 京都府綾部市でネジを生産している

日東精工の広報紙「ニュースレター」8月号で、アメリカからネジを持ち帰った小栗上野介の見識を紹介し、「横須賀造船所のみならず鉄道、新聞、ホテルに株式会社……初めてヴィジョンを描いたのは小栗上野介」、「小栗上野介がアメリカからねじを持ち帰った時から日本の近代化は萌芽していた…」と、小栗上野介が幕末日本の近代化に果たした業績をたたえています。

□遣米使節子孫の会長が参拝 5月11日

村垣範正の子孫村垣孝会長や佐野鼎の子孫ら一行が参拝。



ちょうどこの日に発行の朝日新聞神奈川版に掲載された「東善寺・小栗上野介」の記事を読んで感激した横須賀市民も、新聞を握りしめてやっ

てきて合流、小栗上野介をめぐる話で盛り上がりました。

□朝日新聞5月11日神奈川版で「小栗上野介 群馬から光」記事

朝日新聞5月11日神奈川版で「小栗上野介 群馬から光」として、東善寺の小栗上野介墓地や展示されている関係資料を紹介した。以来、横浜・横須賀から参拝する方が増えています。

□軍艦三笠で住職が講演

6月30日 (火)

特別展「日本海海戦と横須賀製鉄所」を開催中の横須賀市の記念艦三笠で、小栗上野介の業績を評価していることに感謝して、ボランティア講演。急な連絡にもかかわらず、小栗上野介ファンが駆けつけて熱心に小栗上野介の生涯とその業績を聴いてくれました。展示は11月末日まで開催。

